

## 平成29年度 たまの版CCRsea懇談会 第1回会議 議事概要

日 時	平成29年8月28日(月) 13:30~15:00																																							
場 所	玉野市役所3階 特別会議室																																							
出席者 (敬称略)	<p><b>【委員】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">玉野市医師会 会長</td> <td style="width: 40%;">渡邊 正俊</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長</td> <td>三宅 啓之</td> </tr> <tr> <td>玉野商工会議所青年部 直前会長</td> <td>岡崎 晋典</td> </tr> <tr> <td>公益社団法人玉野市観光協会 専務理事</td> <td>池田 敦子</td> </tr> <tr> <td>うのづくり実行委員会 実行委員長</td> <td>森 美樹</td> </tr> <tr> <td>UNOICHI 実行委員会 営業部長</td> <td>福嶋 栄里子</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>木下 雅行</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>岡崎 文代</td> </tr> </table> <p>※ 学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長 五嶋幹雄氏は欠席</p> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事</td> <td style="width: 40%;">京谷 潤</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事</td> <td>石川 勝幸</td> </tr> </table> <p><b>【事務局・委託業者】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">玉野市 政策財政部 部長</td> <td style="width: 40%;">加藤 翔大</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課 課長</td> <td>中嶋 英生</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課 参事</td> <td>小笠原隆文</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課行政管理室 室長</td> <td>山平 智宏</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課 主任</td> <td>佐藤 健介</td> </tr> <tr> <td>産業振興部 部長</td> <td>尾崎 敬一</td> </tr> <tr> <td>産業振興部商工観光課 課長</td> <td>大塚 英一</td> </tr> <tr> <td>産業振興部商工観光課 主事</td> <td>佐々木裕介</td> </tr> <tr> <td>株式会社日本総合研究所</td> <td>川上 佐知</td> </tr> </table>		玉野市医師会 会長	渡邊 正俊	社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長	三宅 啓之	玉野商工会議所青年部 直前会長	岡崎 晋典	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	池田 敦子	うのづくり実行委員会 実行委員長	森 美樹	UNOICHI 実行委員会 営業部長	福嶋 栄里子	公募委員	木下 雅行	公募委員	岡崎 文代	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷 潤	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事	石川 勝幸	玉野市 政策財政部 部長	加藤 翔大	政策財政部総合政策課 課長	中嶋 英生	政策財政部総合政策課 参事	小笠原隆文	政策財政部総合政策課行政管理室 室長	山平 智宏	政策財政部総合政策課 主任	佐藤 健介	産業振興部 部長	尾崎 敬一	産業振興部商工観光課 課長	大塚 英一	産業振興部商工観光課 主事	佐々木裕介	株式会社日本総合研究所	川上 佐知
玉野市医師会 会長	渡邊 正俊																																							
社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長	三宅 啓之																																							
玉野商工会議所青年部 直前会長	岡崎 晋典																																							
公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	池田 敦子																																							
うのづくり実行委員会 実行委員長	森 美樹																																							
UNOICHI 実行委員会 営業部長	福嶋 栄里子																																							
公募委員	木下 雅行																																							
公募委員	岡崎 文代																																							
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷 潤																																							
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事	石川 勝幸																																							
玉野市 政策財政部 部長	加藤 翔大																																							
政策財政部総合政策課 課長	中嶋 英生																																							
政策財政部総合政策課 参事	小笠原隆文																																							
政策財政部総合政策課行政管理室 室長	山平 智宏																																							
政策財政部総合政策課 主任	佐藤 健介																																							
産業振興部 部長	尾崎 敬一																																							
産業振興部商工観光課 課長	大塚 英一																																							
産業振興部商工観光課 主事	佐々木裕介																																							
株式会社日本総合研究所	川上 佐知																																							
配布資料	<p>資料1 たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿</p> <p>資料2 たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱</p> <p>資料3 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>資料4 たまの版 CCRsea 基本構想概要</p> <p>資料5 想定している「たまの版 CCRsea」の取組みについて</p> <p>資料6 今年度の予定について</p>																																							

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 開会あいさつ

### 3. 委員の紹介

### 4. 座長選任

・事務局より、昨年度懇談会にて座長を務めていただいた学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長 五嶋幹雄氏を、引き続き座長へ推薦したいとの提案あり。

→ 委員全員より拍手。異議なしということで、五嶋氏の座長就任が決定。

### 5. 懇談会の運営方法について

・事務局より、以降の進行は、本来座長である五嶋氏に依頼すべきところ、本日は五嶋氏ご欠席のため、今回に限り事務局が進行を代行させていただきたいとの説明あり。

→ 全員了承。

### 6. 議事

・事務局より、下記についての資料説明あり

① 「たまの版 CCRsea 基本構想」の策定について

② 想定している「たまの版 CCRsea」の取組みについて

③ 今後の予定について

→ 主な質疑は以下のとおり。

委員 A； CCRC=Continuing Care Retirement Community という言葉の本来の意味を考えた場合、そこは『移住者』と『高齢者』が中心となるべきである。基本構想の基本方針4の説明でも「移住者や地域住民、若者、障害者等の様々な人が世代や分野を超えて共存し・・・」とあるが、ここにも『高齢者』という言葉がない。『地域住民』という表現にしかなくないため、考え方の中に『高齢者』をプラスしていただきたい。

事務局； 『地域住民』の中に『高齢者』も『若者』も含まれるという認識で記載したものであるが、ご指摘のとおり再度認識を深め計画策定に取り組んでいく。

委員 A； 高齢者への対応が必要ということで、厚生労働省は多職種連携で対応していく地域医療包括ケアシステムを考えた。このシステムの考え方も、たまの版 CCRsea の中に取り入れるべきである。

- 委員 A ; 高齢者への対応は、医療機関も存在しなければ不可能である。人生の最終段階まで生活できる環境でなければ高齢者はいなくなってしまう。そういう面からも、取組みの中に医療関係の事業が加味されるべきである。  
なお、今回の中核エリアとなる場所は、将来的にも交通・行政・医療・介護の各拠点としてなりうる場所であると思われる。
- 委員 A ; 現状として、高齢者の多くは市外に救急搬送されている状況にあり、少しでも市内に留まっていただき対応できるようになれば、玉野市は本当の意味で高齢者にとってよい街になったなと感じることができる。
- 事務局 ; 今回は、まず民間からの提案ということでご紹介させていただいたが、現在、これを元に、行政側の動きとどのようにすり合わせていくのか、議論を進めているところである。今後、医師会にもご相談させていただきながら、どのようにすれば地域包括ケアシステム推進の面からもすばらしい取組みになるのか考えていきたいと思っている。  
なお、現時点でのイメージとして、本取組みでは、保険内というよりも保険外のところで、どのような健康づくりをすればよいか考えていきたいと思っている。その辺りの分担のあり方も含め、今後ご相談させていただきたいと考えている。
- 委員 A ; 観光面については、既存の観光をうまく利用して欲しい。現時点で玉野市は通過点にしかなくておらず、もちろん CCRsea がきっかけとなり新しくなにか動き出せばよいが、その前にやるべきことがあればやっていただきたい。  
例えば、既存施設を活性化させる取組みも必要である。
- 事務局 ; 今回の事業推進主体の中には大手旅行会社も参画しており、既存の玉野の地域資源を活かしながら、なおかつそれらの「見せ方」も重要だと思うので、今後の対応を考えていきたい。
- 委員 B ; 「ローカルブランディングの確立」について、地域特産品の開発に関する記述があるが、玉野市には既存の特産品もたくさんあり、現在は特産品協議会が中心となり取組みが行われている。よって、それら既存団体との連携も必要ではないか。
- 事務局 ; 既存の地域資源をどのように磨き、どのようにブランド力をつけていくか、ということが根底にある。よって、当然ながら関係団体とも連携・協議しながら進めていきたいと考える。

- 委員 C ; 先ずは中核エリアで具体的に物事を進め、最終的には市内全域へ広げていくことを狙っておられるのだと思うが、うまく中核エリア外に展開していかなければ、一層、周辺の地域が疲弊してしまうのではないかと懸念を感じる。また、現状として、中核エリア外には様々な活動をなさっている団体や住民の方がいるので、それらをしっかりリサーチして頂き、その活動に支障を与えない形で中核エリアの取組みを進め、さらには広げて頂きたい。
- 事務局 ; それは、特に市役所が調整役として担うべきところであると認識している。十分配慮して検討を進めていく。
- 委員 C ; 中核エリアのサービスを、中核エリア外で活動する団体にも使ってもらえるよう、また彼らがアクセスしやすいよう考えるべきである。
- 委員 B ; 中核エリアの中にコミュニティスペースを整備する計画となっているが、現在、観光客から観光協会への問合せとして多いのは、土産がまとめて販売されている場所についてである。計画スペースにそのような場所ができればよいと思う。
- 委員 B ; 現在、観光案内所としては、JR 宇野駅構内の一角にある観光案内所、産業振興ビル内 1 階の観光協会事務所がある。また、土・日・祝日については、宇野駅横の交番向かいにある建物に観光ボランティアガイド「つつじの会」が集まり、電車の到着時刻に合わせて駅へ行って、チラシの配布や案内等の観光客のサポートを行っている。そのような既存の場所や活動と、今後整備されるコミュニティ施設が連携できると、観光客に対しより充実したサービスが提供できると思う。
- 委員 D ; まず大切なのは、いかにこの効果を玉野市全域に広げていくかということ。いかに中核エリアから玉野市全域へ浸透させていくのが重要だと感じている。
- 委員 D ; ツーリズムということで、中核エリアから各観光地へ行っていただけるような仕掛けを施し、そちらへお客様を運ぶという流れだとは思いますが、例えば宇野・築港地区については、中心市街地活性化計画の中で、資金を使いながら、いかに観光客に歩いてもらうか、どのように回遊性してもらうかという議論や取組みを進めてきた。それとの関連性をうまく整理し、進めていただきたい。
- 委員 A ; 中核エリアの構想はすでにできているものなのか。

オブザーバー； 中核エリアについて、現時点ではイメージの段階であり、今後、基本計画を策定する中で、どのようなツーリズムやヘルスケアサービスを提供していくべきかにより、計画地へ導入する施設も変わってくると考えている。  
また、コミュニティエリアの部分は、事業推進主体が中心となって進めていくが、それ以外の土地については、あくまで民間事業者がどのように開発していくか考えることになる。

委員 A； イメージには、医療・介護に関する施設の想定がないが、予定をしていないということか？

オブザーバー； 提案書作成段階において医療連携を考える上では必要な施設のイメージがなかった。  
ただし、今後、皆さまと意見交換させていただく中で、必要なものということで良いご提案をいただけるのであれば、前向きに検討していきたい。

委員 A； 高齢社会が進んでいく中で、本当に立地条件のよい場所なので、できればここへなんらかの医療・介護の対象となる施設を整備していただきたいと切に願っている。

委員 B； 観光協会には、宿泊したいという問い合わせが非常に多い。ホームページを見てお越しくださる方も多いが、民間提案のような宿泊施設を中核エリア内に整備していただけるとありがたい。

委員 E ； 民間提案については、実現されると本当に楽しみだと思う。一方で、健康といえば身体的要素の話が多いが、心の拠り所となるような精神的要素の話もあればよりよくなると思う。そのような部分も計画の中で大切にしていきたい。

委員 F； 本件はよい政策だと思うが、その反面、若者としては医療費が負担となり、さらに首を絞めてしまうのではないかとというのが率直な感想。高齢者だけに手厚いだけでなく、子育て世代や若者にももう少し眼を配っていただきたいと思う。

委員 F； インフォメーションセンターが整備される提案となっているが、観光者向けの新しいものを作るのではなく、移住者が作っているものにも目を向けていただき、彼らの取組みを発表できる場になれば、より素敵になると思う。

委員 G ; 既存の温泉施設が、市民にもより行きやすく、療養にもなる場所となり、さらに宿泊もでき、食事もできるということになれば、非常によい場所になると思う。たまのブランドという意味でもよい。  
一方で、医療機関については他の場所にできたとしても、一緒に連携していければよいと思う。

事務局 ; ここでは、特に予防機能としての取組みを確実にしていかなければいけないと考えており、医療を提供するという場とは必ずしも考えていない。

委員 H ; 東西に走る国道 30 号線は横断できる場所が少なく、交差点の交通量も多い。中核エリア内にコミュニティスペースを整備し、観光客のインフォメーション施設とするのであれば、うまく、この場所に人を誘導できる仕組みが必要である。

委員 G ; 高齢者の方だと歩道橋では階段の上り下りが大変なので、スロープ式の地下道を造っていただければ、高齢者でも、車椅子の方でもスムーズに移動できると思う。

## 7. その他

・事務局より、次回第 2 回懇談会は 1 月上旬の開催を予定している旨の報告あり

## 8. 閉会

以上